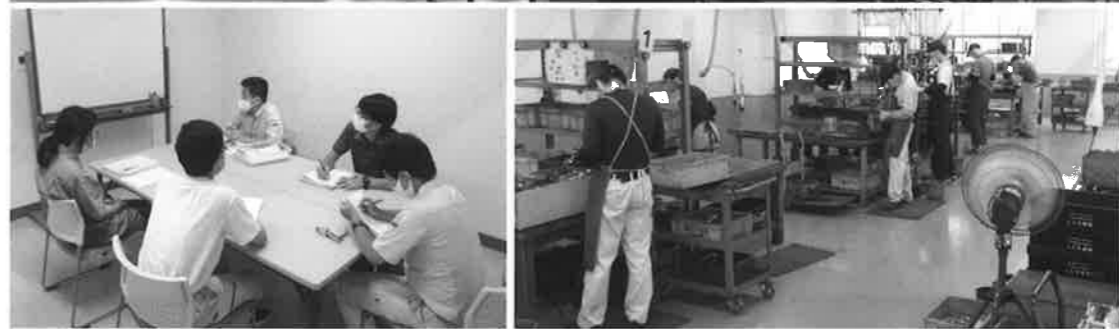


新生はぐるまの家がスタート

加古川はぐるまの家
サービス管理責任者 横田 希



作業室全景 座学 分解班の作業風景

令和2年9月から本格的にはぐるまの家の建て替え工事が始まり、36年間たたくさんが働いてきた作業室は役目を終えました。作業机や棚などすべて運び出した何もない作業室。いよいよ明日から工事が始まるため立ち入り禁止となる作業室を出ていくときは名残惜しく、私にはぐるまの家で利用者さんとともに働いてきたことを思い出しました。振り返ってみるとしんどかったこともありましたが、楽しかったことも嬉しかったことの方が多く、私を今まで育ててくれたはぐるまの家の作業室に感謝しました。

新しい作業室が完成するまで、本館を作業室として利用することになりました。本館は食堂と座学室と小さな作業スペースがある建屋でしたが、半年間は移行籍と継続籍の利用者さんの作業室として使用しました。昨年からのコロナ禍で、ソーシャルディスタンスや密をさけるとは言われていたが、なかなか難しい環境下でした。しかし、現場職員、利用者さんの日々の意識のおかげで事故もなく元気に働くことができました。

令和3年4月1日。新生はぐるまの家がスタートしました。利用者さんは

いつもと変わらず出勤し、新しい玄関先で少し戸惑いながら靴を履き替え、タイムカードを押し、全員がそろったら各班に分かれて館内の見学をしました。広い広い作業室、ピカピカの最新設備のトイレ、広い多目的室に開放感あふれる食堂、エアコン完備の更衣室にみんな目をキラキラさせ、「ひろいなー」「きれいなー」と声が聞こえてきました。

就労継続支援事業B型

【軽作業班】

昨年の1年間は利用者さんには本館に窮屈な思いをさせてしまいました。作業室が狭くなったため、今まで請け負っていた作業をお断りしました。そのため、利用者さんに精一杯働いてもらえる作業量の確保ができず、またコロナの影響で受注は減り、作業を提供できず、体力づくりをする日が続きました。利用者さんと担当職員は本館に我慢の1年間でした。

新しい作業室では特別支援学校の卒業生4名も加わり、一人一人の「できる」を見つけ、本人たちのステップを歩んでいます。

建て替え工事のため一旦中断をお願いしていた、デスクマットの梱包作業は広くなった作業室で無事に再開しました。軽作業班で働くAさん。昨年1年間はずつとつむき加減で働いていましたが、デスクマットの仕事が再開してからは顔も上がり、何度伝えても



下) 軽作業班 上) デスクマット作業

できなかった挨拶も自らできることが増えました。デスクマットの巻き作業も誰よりも上手で、毎日意欲的に取り組んでいます。「仕事は人を変えることができる」ということを改めて感じることができ、Aさんの働く思いに触れたような気がしました。

広い作業室で、その人の得意をいかにせる作業提供と、精一杯働ける作業量の確保を目指し、働くしんどさと働いて得られる達成感や充実感、働きお金を稼ぎ生活が豊かになる体験につながる支援を目指しています。

【分解班】

建て替え工事に伴い、作業室の確保が困難になったため、会社にお願いをし、工場の場所を借りて分解作業を1年間続けさせていただきました。利用者さん15名と担当職員は毎日、明石市魚住の工場まで電車通勤することになりました。駅から徒歩で片道20分かかる道のりを雨の日も風の日も通勤しました。最初は環境も通勤手段も変わらな中で混乱がないか心配でいっぱいでしたが、利用者さんに感謝する日々です。

毎朝、言葉でのコミュニケーションをとることが難しいCさんの「おはよう。がんばろう」のあいさつは私のやる気スイッチをONにしてくれます。作業が終わって、帰宅するときはみんなに「お疲れさまでした。また明日」と送り出しますが、その言葉の裏には「今日もお仕事ご苦労様。いっぱい助けてくれてありがとう」という感謝の思いでいっぱいです。これからも共に働くことを通じて成長していきたいと思っています。

新しいはぐるまの家が無事にスタートできたのは大勢の方のご支援、ご尽力、ご協力のおかげです。本当にありがとうございます。まだまだ未熟な点が多くあり、今後もしっかりとおかけすることは多々あると思えますが、「チームはぐるま」で一人一人が自分らしく輝ける支援をしていきたいと思っています。

こんなに快適な空間でみんなと働けることに感謝し、この思いを支援の形に変えてお返しできるよう、新しいはぐるまの家は歩んでいきたいです。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

したが、ご家族のご協力の下、大きなトラブルなく安全に通勤できました。工場の働きは夏は汗だく、冬は底冷えも体感しましたが、何より本物の会社の中で働く貴重な体験は利用者さんたちをたくましく成長させてくれました。会社の皆様、1年間の働く場所の提供だけでなく、私たちが安全に安心して働けるようにお気遣いいただいたことに感謝しております。本当にありがとうございます。

1年間はぐるまの家に来ることがなかった15名の利用者さん。出向先の工場では「どんなはぐるまの家になっていくのかな」「いつできるのかな」とみんな楽しんで待っていました。令和3年5月10日分解班は、はぐるまの家に戻ってきました。物の置き場所も大きく変わった環境下でも、利用者さんは誰も動じずに黙々と目の前の作業に取り組んでいました。「うまく流れるかな」という担当職員の不安はすぐに吹き飛びました。

分解班の作業は決してきれいな作業とは言えません。新しい作業室の空調のある環境に感謝し、「きれいに大切に使う」を合言葉に利用者さんともにも作業室の清掃にも力を入れて頑張っています。

【企業内作業班】

はぐるまの家では二つの企業内作業班があります。朝と夕方では風景は変わり、日々、着々と進んでいく工事の様子を楽しみにする毎日で、みんな4月の完成を心待ちにしています。

そして、4月、担当職員は快適なはぐるまの家を見て、会社に行きたがらないのではと内心ドキドキでしたが、すぐに安心になりました。Bさんは自分のロッカーとタイムカードがあることを確認すると、時計を指して「会社、会社、遅刻、大ベケ」と催促し、みんなを引き連れて、あわただしく公用車に乗り込み、会社へと出発していききました。その切り替えの早さにあっけなさを感じながらも、誇らしい気持ちにさえなりました。

就労移行支援事業

一般就労を目指して訓練する就労移行支援事業では今まで座学として使用していたスペースを作業室としましたが、とても狭く、全員同じ場所での作業はできないので、廊下と食堂も作業室として使用しました。訓練プログラムには座学・清掃訓練もあるのですが、工事中はそのプログラムはほとんどできませんでした。しかし、利用する人の期限が建て替え工事だからといって延長できるわけはありません。担当職員は一人一人と振り返る時間を作りながら、本人たちが「今の自分を知らず」「これからどうなりたいかを考える」そして自分自身の得意なところ、いいところを知り、苦手な面を受け入れ、自分でできる対処策と周囲に願っている面などの整理を丁寧に行いました。そして、例年と変わらない人数の利用者さんが一般就労へつながりました。



清掃訓練

昨年度は学生の実習の受け入れ、見学もお断りすることが多かったのですが、もう大丈夫です!!企業の方にもぜひ見学いただき、利用者さんの働く姿を実際に見て、障害者雇用のイメージを膨らませて可能性を広げて頂ければ嬉しいです。

これからの一人でも多くの「就職したい」「働き続けたい」を実現できるように支援の幅を広げていきたいと考えています。